

5 障害のある子どもや外国人の子どもなどの読書活動の推進

子どもと保護者への取り組みの充実

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
94	読書活動	保育や教育の場で子どもの状況に応じて、日常的に絵本の読み聞かせや子どもと本をつなぐ取り組みを行う。	継続	○			生徒や教職員が興味のある本を選び学習や趣味の時間に活用した。特に絵本などは病院の患者の方々も利用し役立った。	刀根山支援学校
							<ul style="list-style-type: none"> ・保育室や待合室に子どもが自由に手に取ることができるように絵本棚を設置。好きなときに取り出して見ている。友だちが見ていると興味を持って見たい、という様子もあり、一緒に楽しむような場面もたくさんあった。 ・クラスによってはお気に入りや、お勧めの本を親子で探して持ってきてくれる子もあり、その本をクラスの友だちと一緒に楽しんでいるような場面もあった。 ・外来訓練利用児(年齢は主として3歳未満児)については、毎週保育の場を提供しているが、毎回絵本の読み聞かせを行なっている。 子どもたちが、絵本を楽しむ姿を保護者の方に知ってもらうと同時に、その時々のお話や、なぜ、子どもたちの心を捉えているのか、というようなこともピンポイントで伝え、保護者の方自身に子育ても絵本も楽しんでもらう場としてのとりくみをしている	しいの実学園
							設定保育の導入や給食準備中、自由遊びの時など、絵本を読む機会を多く持っている。絵本のお話が遊びへと発展するクラスもあった。子どもが絵本に興味がないと思っている保護者の方に子どもが興味を持ちそうな絵本の紹介をしてきた。引き続き、保育の中に積極的に取り入れていきたい。	あゆみ学園
							朝の会や授業などで紙芝居の読み聞かせや、絵本を読む機会をもった。又、図書館を訪問し、豊富な本の中から興味のある本を選び本に親しむ機会をもった。	豊中支援学校

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
95	「おやこでにほんご」	地域に暮らす外国人親子が安心して参加できる親子参加型日本語教室を図書館で継続して行うことで、外国人親子の読書推進、母語継承の問題など、地域課題のひとつであるマイノリティ住民の抱える問題解決につながる事業としていく。	継続	○	回数 / 人数 おかもちおやこでにほんご 36回 外国人大人 62人、外国人子ども 45人、ボランティア 243人、ボランティアの子ども 139人 しょうないおやこでにほんご 36回 外国人大人 111人、外国人子ども 37人、ボランティア 204人、ボランティアの子ども 172人	毎週火曜日10時から12時に外国人親子のための居場所作りを行っている。毎回数組の外国人親子が、季節に合わせた企画やお話会の中で日本語および日本文化に触れ、子育ての情報交換や手遊びおよび絵本の読み聞かせに参加している。子どもに手遊びや読み聞かせを行うことで親子のコミュニケーションを深めること、普段あまり読み聞かせをしない親子にはもちろん、家では子どもの好みに偏りがちな親子に幅広い範囲の絵本に触れる良い機会を提供できている。日本社会で必要不可欠な日本語を学ぶ場であると同時に、母親の母語による読み聞かせは子どもたちが母親の母語や文化に触れる場でもあり、他の親子にとっては異文化に触れ、学ぶ場にもなっている。母語及び母文化の継承が、親子の断絶を防ぎ母親に活力を与え、子どもの心身の発達にも重要であるという事を踏まえ、図書館の外国語の本をさらに積極的に活かしていきたい。地域で孤立している外国人親子が「おやこでにほんご」事業に出会えるよう、外部機関との連携をさらに拡げていくこと、日本語理解が不十分な親子が安心して参加できる内容作りが課題である。	○おやこでにほんごとよなか国際交流協会市立図書館	
96	市立図書館における多文化サービスの充実	外国人市民が図書館を利用するきっかけとなる事業や、地域の多文化共生を推進するための事業を図書館、とよなか国際交流協会、市民ボランティア等が連携して行う。	継続	○	おはなし会 参加人数 回数 2回 87人 /	岡町図書館において、豊中子ども文庫連絡会と共催し、「子どもと本のまつり」を行い、多言語のおはなし会を実施した。今年度はベトナム語と英語で絵本を読み聞かせした。(66人参加)また千里図書館では「コラボまつり」でTIFAと共催し、インドからの留学生を講師に子ども対象の催しを実施した。(21人参加)	市立図書館市民団体(地球ママくらぶなど)とよなか国際交流協会	
97	「おはなし会がやってきた！」	子ども文庫やおはなしグループに依頼し、日頃図書館を利用しにくい子どもたちに出前のおはなし会を行う。 [55、131にも掲載しています]	継続	○	回数 / 参加人数 3カ所で6回開催、参加人数は303人	支援学校1校(4回開催)、障害児通園施設2カ所で開催した。普段から移動図書館で巡回している図書館担当者と毎年おはなし会をさせていただいているグループが、おはなし会に参加してくれる子どもたちの毎年の様子を継続して見る事ができている。今後も各施設の教職員・保育士と連携して、事業を継続していくことが必要である。	市立図書館	
98	子ども文庫での活動	子ども文庫が地域の中で本に出会える場であるということやPRし、障害のある子どもや外国人の子どもも絵本やおはなしを楽しめる場となるよう、図書館やとよなか国際交流協会などと連携して活動する。	継続	○		4か月児健診では図書館からの配布物セットのなかに「子ども文庫のしおり」を入れることで、保護者に対して子ども文庫のPRを行っている。また、図書館との共催事業として毎年実施している「子どもと本のまつり」では、多言語によるおはなし会を必ず行い、すべての子ども達がおはなしや読書を楽しむことができるよう事業を展開している。文庫では、個々の利用者に合った、きめ細かな対応ができるように、他の団体と連携を取りながら、活動している。	○豊中子ども文庫連絡会市立図書館とよなか国際交流協会	
99	絵本講座の開催	絵本の講座やおはなし会の中で保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。 [6、127をご参照ください]	継続	○	回数 / 人数 1回 20人	小さな子どもと保護者が身近な場所でおはなしや本の楽しさに出会えるよう、子育てサロン・サークルなどへ出前絵本講座を行っている。平成22年度は「しょうないおやこでにほんご」でも日本語で絵本講座を開催した。	市立図書館	

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	実施状況と課題		関係部局・団体
						実績		
100	絵本講座の開催	外国人保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。	継続	○	回数 / 人数	1回 20人	外国人保護者と子どもに読み聞かせの楽しさを感じてもらい取り組みとして、図書館職員を講師に招き、絵本の読み方講座と実演を実施した。	とよなか国際交流協会 おやこでにほんご
101	図書館見学会の実施および保護者への図書館利用の案内	通園施設や支援学校の子どもと保護者に対して図書館見学会を行う。またその際に障害のある子どもの保護者や障害のある保護者が子どもと一緒に図書館を利用しやすいように、利用の方法など図書館のサービスについて詳しく案内し、同時に保護者の声を聞く機会を定期的に持つ。	継続	○	実施回数 / 参加人数	未実施	図書館への見学会は今回は日程的なことやバスの手配など考慮すべきことがたくさんあって、実施できなかったが、次年度は前向きに検討していきたい。	しいの実学園
						実施1回	平成22年度も単独クラスの親子と担任で、野畑図書館を見学した。おはなし会の後、本の貸出を行った。今年度も貸切ということで親子ともリラックスして楽しめた。見学後アンケートを取ると、回答率91%だった。「今まで図書館を利用したことがある」は、58%で、利用したことはあるが行きづらさを感じている方も多く、今回「あゆみの子どもたちだけでゆっくり本を選ぶのはとても良かった」「いつもは他の子どもさんを気にしてしまうが、いつもよりじっくりのんびり参加することができた」などの声が聞かれた。個人のカードも作ることができ、「また利用したい」という声も多かった。「見学を続けてほしいか？」については95%と高く意義を感じる。	あゆみ学園
						1回 親子24組・職員18名	あゆみ学園の単独通園クラスを対象に、野畑図書館にて親子で図書館見学を実施。おはなし会のあと、フロアで直接本を選んでもらい、貸出を行った。月末休館日を利用して行ったため、他の利用者に気兼ねすることなくゆっくりと見学していただけた。実施できなかったしいの実学園との調整が課題。	○市立図書館通園施設
102	図書館見学会	外国人の子どもや保護者、その支援に関わる協力者に対して図書館見学会を行う。	継続	□	実施回数 / 参加人数	未実施	単独の見学会では実施していないが、「おやこでにほんご」などの機会に図書館利用に関する情報提供を行った。	○市立図書館 とよなか国際交流協会 市民団体 (地球ママくらぶなど)

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
103	動く図書館による施設サービスの充実	動く図書館が通園施設や支援学校、保育所を巡回して、子どもや教職員が直接選んだ本を貸出する。動く図書館の巡回について、教職員や保護者の意見に対応し、各施設の読書環境の整備を支援する。	継続	○	動く図書館で巡回している施設数 / 貸出冊数 支援学校2カ所、通園施設2カ所、保育所6カ所、16,407冊		約4週間に1回、各施設を巡回して貸出を実施。子どもが直接本を選ぶとともに、教職員の保育用資料や保護者向けの資料も貸出している。巡回が定着しており、貸出冊数は増加。個別の要望については巡回時に聞き取りができています。改めて交流の場を定期的に持つことが課題である。	市立図書館
104	小児科病棟でのおはなし会の実施	市立豊中病院とおはなしボランティア(おはなしたまてばこ)、市立図書館が連携し、小児科病棟でのおはなし会を行う。	継続	○	おはなし会の回数 44回		毎週木曜日に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手づくり遊びなどを行っている。非感染ルームとプレイルームの2カ所で活動するとともに、夏祭りやクリスマスなど病院の行事にも参加している。子どもたちや付き添いの保護者の方たちも楽しんでいただいている様子。絵本選びや活動の内容はメンバー間で共有している。	○おはなしたまてばこ 市立豊中病院 市立図書館
105	「図書館へようこそ」の周知	「図書館へようこそ」(バリアフリー宣言)を周知するとともに、ハード、ソフトの両面について、図書館利用の障害をなくよう取り組む。 [121にも掲載しています]	継続	○			各図書館に「図書館へようこそ」を掲示するとともに、各職員がマナーアップキャンペーンの一環で平成22年12月から1か月程度の間、「お探しの資料は見つかりましたか?」といったワッペンを身につけ、館内で声をかけてもらいやすいよう取り組みを行った。	市立図書館

子どもの本や読書に関する情報提供

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
106	絵本などの情報提供	図書館のホームページやメールマガジン、ケーブルテレビなど多様なメディアで本の紹介などを行う。 [5、137にも掲載しています。]	継続	○			図書館のホームページで、平成22年夏より「かんさいべんのえほん」を紹介中。	市立図書館
107	図書館のPR	渡日外国人児童生徒の相談窓口、外国人登録窓口、とよなか国際交流協会などで、多言語の図書館利用案内を配布する	継続	○	実施		こども読書マップを活用して情報提供を実施した。今後は幅広く周知するために多言語案内をさらに活用し、国際交流センターの利用者に案内したい。	○渡日児童生徒相談室 ○とよなか国際交流協会 市立図書館

読書環境の整備

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
108	市立図書館の外国語資料の充実	関係団体と協力し、外国人市民の意見やニーズを把握しながら、市立図書館の外国語資料を購入や寄贈によって充実するとともに、岡町図書館の「世界のこどもの本の部屋」をより利用しやすいものにする。 [145にも掲載しています。]	継続	○	新規受入冊数 / 蔵書冊数	新規112冊 蔵書冊数7695冊	リストでの選書に加え、書店へ買出しに行き選書した。寄贈本については、受入れの準備段階の作業に留まっている。受入れのルールや流れを作り、寄贈本も最大限活用し、蔵書の充実に努めたい。	市立図書館
109	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実させる。 [147、148をご参照ください。]	継続	○	実施	大型本やCDなど高額で購入できないものを借りることで授業に役立った。保護者や病院の方々も図書コーナーの本を利用している。	刀根山支援学校	
						動く図書館による団体貸出、リサイクル図書、寄贈図書などにより、図書の充実をはかることができている。保育に使用したい本を前もって図書館に連絡し持ってきてもらうことも増えてきている。	しいの実学園	
						大型絵本などや、なかなか買えない本を動く図書館で借りることで、いろいろな絵本の楽しみを提供できた。各クラスから借りたい本の希望も出してもらっている。ディサービスでも幼稚園に行っている子を対象としたクラスの絵本を充実させることもできた(電車や迷路の本などが好評)リサイクル図書を利用することで園バスに置く本も増え、楽しめている。	あゆみ学園	
						月に1度、豊中市立岡町図書館の『動く図書館』を利用した。学校の図書室には無い新しい本やCDなどを借りることが出来、子どもたちはとても楽しみにしていた。僅かではあるが、寄贈のマンガ本もあった。	豊中支援学校	
110	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映させる。 [144にも掲載しています。]	継続	○	施設数	図書館から資料等についての情報提供をうけ、学校の資料充実に向けて活用している。今後も選書の参考とするため、特に中高生向けを中心とした情報提供を希望する。教職員は教材づくりに役立っている。	刀根山支援学校	
						選書に反映されるよう、園で活用したい図書名を図書館へ情報提供している。	しいの実学園	
						施設や学校で活用される資料のニーズについて、巡回時に情報交換している。それを移動図書館車に積み込む資料に反映することで、施設や学校の読書環境の整備につとめている。施設の職員や保護者が入れ替わる際などに、交流の場を持つことが課題。	市立図書館	

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
111	外国語資料の整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索や利用を促進できるように研究を行う。また市立図書館ととよなか国際交流協会が資料の情報を共有し、分担収集をするなど、ともに蔵書の充実を進める。 [146にも掲載しています]	継続	△	貸出冊数	32冊	言語的マイノリティにおかれる外国につながる子どもたちが、乳幼児期から母語や絵本と出会うために2007年度に「多文化子ども読書推進活動」を立ち上げ、外国語絵本を整備し、外国につながる子どもたちの参加する事業(多文化子ども保育にこにこ、子ども母語、日本語・学習支援サンブレイスなど)で絵本を使った活動を取り入れ、保護者には貸し出しサービスを紹介している。地域の子育て支援行事(わくわくらんど)などでも外国語図書コーナーのPRを実施した。	とよなか国際交流協会
				○			世界のこどもの本の部屋の英語以外の外国語資料について、データ化していく仕組みを考案中。日本語タイトルがある資料については、本の裏表紙に日本語タイトル名を添付する作業を平成23年には実施予定。	市立図書館
112	団体貸出のPR	関係機関・団体に向けて団体貸出の制度をPRし、冊数や期間など各施設の状況に応じて団体貸出を行う。 [12、43、63をご参照ください]	継続	○		実施	障害児通園施設などでの団体貸出については制度の周知はできているが、予約制度などのPRがいきわたっていない部分もあり、今後は施設の職員や保護者と情報交流の場を持つ中で情報提供していくことが必要となる。(動く図書館担当) 平成21年度には小学校の帰国学級から、帰国した子が日本の学校生活になじめるような内容の本等で団体貸出を行った。担当者が変わると利用が途切れてしまうことが多いので、継続して利用していただけるよう年度初めに団体貸出の利用更新の呼びかけを確実に行う必要がある。(団体貸出担当)	市立図書館
113	資料の並べ方やサイン(本棚や館内の表示)の見直し	利用者が図書館職員に相談しやすいような雰囲気づくりに努める。資料を利用しやすいよう、サイン(本棚や館内の表示)や資料の並べ方を見直す。	継続	○			千里図書館では、こどもトイレの前に「おとなのトイレはこちら」の表示と場所案内図を設置し、「よみつがれてきたえほん」「むかしばなしのえほん」の表示をわかりやすく作り替えた。	市立図書館
114	多言語の利用案内やサイン(本棚や館内の表示)の作成	子ども向けの利用案内やサイン(本棚や館内の表示)などを多言語表記にする。	継続	○			多言語表記よりは、イラストやサインで誰にでも一目で分かる表示や案内を引き続き考えたい。	市立図書館 国際交流協会 市民団体(しょうないREK)
115	入院中の子どもの読書環境整備	市立豊中病院と市立図書館が連携し、患者用図書室などを充実させ、入院中の子どもの読書環境を整備する。	継続		病院への団体貸出冊数	21冊	今年度も小児病棟への長期貸出を実施した。また、小児科の診察を待つロビーに設置されている本棚についても、一部リサイクル図書(児童書)を持参して入れ替えを行った。	○市立豊中病院 市立図書館

子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

◆〈全体的な取り組み〉(4ページ)をご参照ください。

子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
116	ボランティア活動への支援	録音図書、点字図書や拡大写本など、障害のある子どもに有効なメディアを研究し、製作に携わるボランティアを育成・支援する。	継続	○	フォローアップ講座などの回数 / 参加人数	2回 16人	音訳ボランティアのフォローアップ講座を実施し、制作にかかわるボランティアを支援した。また人権講演会として高川図書館でLLブックやマルチメディアデイジーに関する講演会を実施し、情報共有の機会とした。	○市立図書館 ひまわり教育センター
117	おはなしボランティアへの支援	障害のある子どもや入院中の子ども、外国人の子どもに向けておはなし会を行うボランティアに対して市立図書館が図書資料や情報などを提供する。	継続	○		実施	読み聞かせに使用する絵本や紙芝居などの資料を提供している。また、今年度は「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」で臨床心理士を講師に招き、子どもの心と身体の発達と読み聞かせについて講演していただいた。	市立図書館

子どもに関わる大人への啓発と研修

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
118	市民向けの啓発事業の実施	市民に向けて、障害のある子どもに対して理解を求める取り組みや啓発を行う。	継続	○	回数 / 参加人数	1回 16人	高川図書館で人権講演会として、文字を読む読書をするのが難しい人のために開発された「LLブック」(スウェーデン語で「やさしく読める本」)についての講演会を実施した。	市立図書館 通園施設 支援学校
119	職員の研修	障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの情報を共有できるよう教職員の研修を行う。	継続	○	職員研修の参加人数		あゆみ、しいの実の両園で、親子クラスについて、互いの保育の公開と勉強会を行い、それぞれの子どものおかれている状況、親子関係についてなどを学びあった。	通園施設 市立図書館
120	情報交流と研修	図書館や各施設で行う研修の情報を共有し、研修の機会を広げる。 [72、157をご参照ください。]	継続	○			高川図書館で人権講演会として実施した「LLブック」や「マルチメディアデイジー」に関する内容を障害児に関わる担当者との情報共有に取り組んだ。	市立図書館